

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail square@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：S R S株式会社

定 価：一部 30 円

2014年 4月 20日

第 371 号

## 離島伝道と地域福祉

理事長 稲松 義人

4月16日、私は三方原の教会でおこなわれた葬儀に参列しました。亡くなられたのは、隠退牧師の雨宮恵先生で、在宅支援センターをばびるす施設長の雨宮寛氏のお父様でもあります。先生は若い頃、聖隷の働きとも関わりがあり、戦後の弁天島同胞寮という母子支援施設で児童指導員として働かれたこともあると聞いています。その後、九州に牧師として赴任し、さらに、奄美大島、宮古島と、いわゆる離島伝道に尽力された方です。牧師を隠退したあと、5人の子どもさんたちに近い、浜松に戻って来られ、最後は十字の園で介護を受けながら過ごしておられました。

以前、雨宮寛氏が、私が代表を務める日本キリスト教社会事業同盟が主催する研修会でパネリストをしてくれたときに、「私の父は、牧師ですが、教会で仕事するだけではなく、あるときは学校へ、またあるときは病院や刑務所へと、必要があればどこへでも出かけていたことを思い出します。小羊学園の施設の職員から、相談員をするようになって、ふと気がついてみたら、私も、たびたび学校へ行き、あるいは病院へ行き、ときには拘置所にも出かけることもあり、何か父と同じようなことをしているなあと感

じたことがあります。」というような話をしてくれたことを思い出します。

また、雨宮先生から頂いた離島伝道の足跡を記されたご著書を読ませていただいて感じたのは、離島伝道は、地域での福祉実践と全く同じような働きなのかなということでした。

私も小羊学園に就職し、施設の職員として施設の中で、障がいのある人たちの支援をしてきました。時代の移り変わるなかで「地域」のニーズを受けるようにと言われるようになり、ショートステイや日中一時支援などにも取り組むようになりましたが、それでも、施設に支援を求めて来る人たちへ、施設の中で支援することがほとんどだったように思います。

旧い小羊学園の建物を、三方原スクエアというかたちに建て替えて、完成後6ヶ月だけ施設長をしましたが、その後は、南区にある事業所の施設長をしています。通所型の施設も、通所してくる人たちに、施設の中でサービスを提供しているならば、入所施設をきほど目新しいことと感ずることはないかも知れません。しかし、地域の中で生活する人たちの様々な問題を知り、その課題に向き合おうとすると、施設の中だけに留まることができる仕事ではなくなります。

きっと、離島伝道においても、教会を建て待っているだけでは、誰も教会に来る人はいないでしょう。地域に出て行って聖書の話をするだけでは、ほとんどの人たちは、耳を貸してくれないような気がします。地域に住む人たちの生活の中に入り込んで、そこにある課題と一緒に取り組む、地元の人たち以上に熱心に粘り強くその課題に向き合ってこそ、地域の人たちは話を聞いてくれるようになるのではないかと思います。

奄美大島には、雨宮先生が初代園長を務められた奄美佳南園という特別養護老人ホームがあり、公立だった保育園の運営も担われたとききます。教会に来るようになった人たちは、ごく一部かも知れませんが、その周りには、先生にいろんなかたちでお世話になった人たちがおられ、その人たちは、教会に嫌な印象をもっていないでしょう。すぐに結果のでるような仕事ではないと思います。施設での福祉活動よりも数値化しにくいと思います。しかし、地域に住む人たちが自分たちの中にある可能性を發揮し、自ら課題に向き合い、解決への取り組みに携わっていくならば、あとになって振り返ったときに、そこに轍のような足跡が残されているような気がします。そして多くの人たちがその道を自分たちの道として、自分たちの足で歩いてくれるとすれば、そこに地域福祉の成果が感じられるのではないだろうかと思っています。



# 相談支援の現場から見えること

日本の社会福祉は、「給付」と「施設」をベースに展開してきました。社会福祉法人小羊学園においても、取り組んでいる社会福祉事業の中心は、施設や事業所を経営・運営することです。そこでは、対象となる人たちへ直接ケアすることが中心でした。

小羊学園において、社会福祉事業への取り組み方(手法)に変化を感じたのは、相談員が配置されるようになったところからです。静岡県から受託した「地域療育等支援事業」に「コーディネーター」を配置し、在宅の人たちの相談に対応するようになりました。後に固有の事業名をつけたのが「アグネス」です。現在は、アグネス(浜松市中区)、アグネスみなみ(浜松市南区)、アグネス静岡(静岡市)の3ヶ所で事業所があり、アグネスでは、今年度からこれまで事務所のあった事業所「在宅支援センター」は「びるす」が手狭になったため、近くに専用の事務所を開設しました。

今回のつづえでは、相談支援の現場での経験から見えるもの、感じていることについて、相談員たちに聞いてみることにしました。

## 毎日の業務

：相談員の皆さんは、日常、具体的にどんなお仕事をしておられるのでしょうか。

### 相談員・高橋

在宅で生活している障がいをお持ちの方、そのご家族からの相談を受けています。

まずは、電話での問い合わせや相談が入ることが多いですね。それから、直接ご本人やご家族と面談をさせて頂くのですが、ご自宅や通っている事業所を訪問することが多いです。そこでどんなことに困っているかを聴かせて頂き、解決するための方法を一緒に考えていきます。

記録や書類を整理するなど事務的な仕事も多々ありますが、基本的には相談者の希望される場所へ出向いての相談が多いです。事務所にいないことが多いので周りからは何をしているのか判りにくい仕事かもしれません。前年度、私の所属するアグネスみなみでは、約280人、対応回数としては約2000回程度の相談支援を行いました。

### 相談員・本宮

地域で生活している、サポートが必要な方やご家族の相談を受けています。具体的な動きとしては、高橋さんと同じで、ご自宅へ訪問したり、日中の活動場所へ出向き様子を確認させていただいたり、少ないですが、事務所に来ていただいで相談をお受けすることもあります。また、必要に応じてご本人、ご家族を含め関係機関の方々と支援会議等を行うこともあります。

基本的な姿勢としては同じですが、お話を伺い、ご本人の様子を確認した上で必要とされる支援をご本人やご家族と一緒に考えるようにしています。

前年度アグネスでは、約400人に対し約3000件程度の相談支援を行いました。

### 相談員・雨宮

基本的には、お二人と同じですね。相談の内容は幅広く、単に福祉サービスを紹介するだけのことから対人関係の悩みや経済的な課題までご本人やご家族の抱える生活上の様々な困難さが相談の内容になります。求めている支援がすぐには見つからないことや支援につながらない事も多いのですが、時間をかけながら少しずつでも解決していけるように心がけています。本宮さんが言うように、課題によっては、福祉関係だけでなく教育や医療、就労など様々な機関や

事業所等とも連携をしながら支援を調整し時には支援会議を行うこともあります。

最近では、平成24年度から導入された計画相談(サービス利用計画の作成)への対応が大変ですね。昨年度、2事業所で200名程度の対応を行いました。が、手続き上の役割が増えた分、相談にかける時間が少なくなってしまう矛盾を感じています。

## 施設での仕事との違い

：施設の支援員などから、転属になって相談の仕事をするようになったわけですが、施設の中での支援との違いを感じるのどんな点でしょうか。

### 相談員・高橋

施設勤務ではショートステイなどで施設を利用される方以外は、特定の利用者さんの支援になりますが、相談支援は地域に住んでいる様々な方からの相談を受けることになります。障がい像も幅広く、時には、障がいの手帳をお持ちでない方の相談もあります。たくさんのお会いがある仕事だと思います。相談者だけでなく先ほどもでていましたが、相談者に関わる機関との連絡調整などでは、行政や教育機関、地域の民生委員の方々など多岐に渡る多くの人たちと関わりを持たせて頂いています。



相談員・本宮

同じですが、施設の支援であれば、関わらせていただく方や、ご家族が限定されており、一日の流れもある程度決まっています。私が、以前所属していた部署が入所支援やケアホームだった為、支援の際には、そこで生活されている方と日々どう向き合うかということに重点が置かれていたように思います。

一方、相談支援に転属し私が始めて感じた違いは、不特定多数の方から際限なく相談が入ってくることへの大変さや、相談者だけでなく、相談者とその周囲で支援して下さっている方たちとのパイプ役になることへの戸惑であったように思います。又、先ほどのお話にあったように、障害の種別も関わらせていただく方の年齢層も数ヶ月の赤ちゃんか

らお年寄りまで幅が広いことに驚きました。

一日の流れも、相談者のご都合に合わせて予定を組むため当然、日々違い決まった動きが少ないことも施設の仕事とは大きく違う点ですね。

相談員・雨宮

基本的に違うのは、相談支援は直接的な援助ではなく間接的な援助であるということでしょうか。施設では、利用者が必要とすることに対し介護や介助を通し直接的に支援を行います。相談支援は、必要とされる支援を様々な社会資源の中から選択して利用することをお手伝いします。施設では、利用者が何を求め必要としているかを考え直接支援を行います。地域で生活する人たちの相談支援は、あくまでもつなぎ役ではないように思います。施設の生活は、ある程度守られた中で全てを完結することができませんが、選択肢や生活の幅が少なく少々窮屈にも感じます。地域での生活は、相談者が望めば生活の幅も選択肢も広がります。広がれば広がるほど相談支援の役割も広がることとなりますが…。

**地域での連携**

…施設内での支援とは違って、行政も含め、他の機関や事業所等と調整する上

では、個々の相談員や一相談支援事業所だけの努力では、限界があると感じることもあるかと思いますが、いかがですか。

相談員・雨宮

先ほどから話にできてくるように、相談支援はパイプ役でありつなぎ役であると考えています。また、相談者が住んでいる地域をベースに支援が展開されていきます。相談者が必要とする支援を如何につなぎ、その自立や自己実現を図っていくことが役割になります。その上では、相談員や相談支援事業所だけでは当然、限界というより何もできないのです。施設や行政等の福祉サービスだけでも不十分です。その意味では、業種や機関を問わず相談者にとって必要と



される支援のネットワークを作ることが重要になります。そのネットワークの構築も相談員や相談支援事業所の大きな役割だと考えます。

相談員・高橋

アグネスみなみは昨年10月から、浜松市のモデル事業として同じ南区にある相談支援事業所「はまかぜ」と一緒に仕事をすることになりました。名前は「浜松市障がい者相談支援センター浜松南」です。「はまかぜ」は精神的な障がいのある方の相談を多く受けてきた事業所で、お互いの得意分野を活かしながら相談者へ対応しています。相談員も2名から4名に増えました。色々な角度から相談内容を捉えることができ、お互いに意見交換を行うことでより相談者のニーズに沿った支援ができるのではないかと考えています。

また、事業所の隣には、南区役所があります。行政にきた相談がすぐにつながりセンター化した目的でもあるワンストップの対応や行政との情報交換もしやすいというメリットがあります。

その他に、ネットワークという意味では、区の障がい者自立支援連絡会というものがある5年ほど前に設置されました。その集まりを通して近隣の福祉事業所や民生委員さん、学校の先生達とも話し合いができる関係になっています。自立支援連絡会については、地域の課題を共

有し施策へつなげていく事と支援のネットワーク化を目的に取り組みを行っています。

相談員・本宮

相談支援においては、課題がスムーズに解決するケースばかりではありませんが、個々のケースは相談員が関係を作り、事業所内で検討したり、関係機関（事業所や行政など）と相談したりしています。緊急性が高い内容については、その都度対応していますが、相談支援を通して地域としての共通の課題が出てきた際には、地域の課題として各区の「自立支援連絡会」を活用することも方法です。

浜松市では、昨年度「自立支援連絡会」をどのように運営していくかを、障害福祉課の方と各区の自立支援連絡会の代表が集まり、検討を重ねてきました。今年度から、区からの課題を集約し専門部会で検証する浜松市自立支援協議会がスタートすることになりました。各区の課題が市の課題として施策に反映され易くなるのではないかと期待しています。

：小羊学園の今後の事業展開を考える上で、相談支援の現場から見えてきたものをどのように取り込んでいけるかは、大きな課題だと感じました。ありがとうございました。おわり

小羊デイケアホームとマルカートの交流会

小羊デイケアホームと、デイケアホームから分かれて南区に開所したマルカートは、毎年4月に、浜名湖ガーデンパークで交流会をし旧交を温めてきました。今年は浜名湖花博のためガーデンパークではゆつくりできないかなというところで、場所を浜北区にある竜南緑地公園と浜松市発達医療総合福祉センター友愛のさとの体育館という事で計画しました。

当日はあいにく雨天で、公園でのお弁当はできませんでしたが、友愛のさとのご配慮で、お部屋をお借りしてお弁当を食べさせていただきました。午後からは体育館で交流会をしました。友愛のさとの中にある同じ通所施設「かがや



き」のメンバーさんとも合流してくださり、以前にデイケアホームに通って人や、ショートステイや放課後デイサービス等で小羊学園を利用されたことのある方も再会することができ、また新しい交流の輪が広がりました。

公開講演会のご案内

小羊学園は再来年創立50周年を迎えるにあたり、創立者山浦俊治先生の歩みを振り返る講演を行います。

日時 平成26年7月19日(土)

13時30分～15時30分

会場 支援センターわかぎ

内容 (仮称) 山浦俊治と共に歩んだ新たな展開

※詳細は次号で紹介いたします。

つばさ静岡 「看護師募集のお知らせ」

毎週水曜日看護師就職説明会を現地に開催しています。業務内容・求人内容ご説明させていただきます。見学だけでも結構です。お気軽にお問い合わせ下さい。個別の就職相談も対応させていただきます。

所在地/静岡市葵区城北 117  
電話/054-249-2830  
担当/鈴木・望月

編集後記

先日、他法人の職員が施設見学にいられた際に施設を案内しながら、利用者の可能性について会話をした。会話を要約すると、「援助者は、利用者との付き合いの中で無意識に安全管理や予測を先回りしてブレーキをかけがちになつてしまう。また、施設内や事業所単独では、どうしても支援に限界が生じ、可能性を伸ばしてあげられない」。自分たちの仕事を振り返り、もつと利用者の可能性を信じ、そのために何ができ、できない部分は社会資源で何が活用できるのか再考する良い機会を与えていただいた。

新緑まぶしい清々しい季節です。夏に向け、心身ともにフレッシュな気持ちで過ごせますように。(F)

小羊学園を支える会

2013年度寄付金報告

3月受付分 30,126,520円 (20件)  
累 計 36,115,974円 (397件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785  
口座名義 社会福祉法人小羊学園  
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785  
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。小羊学園を支える会事務局(鈴木) 三方原スクエア内 ☎ 053-414-1833